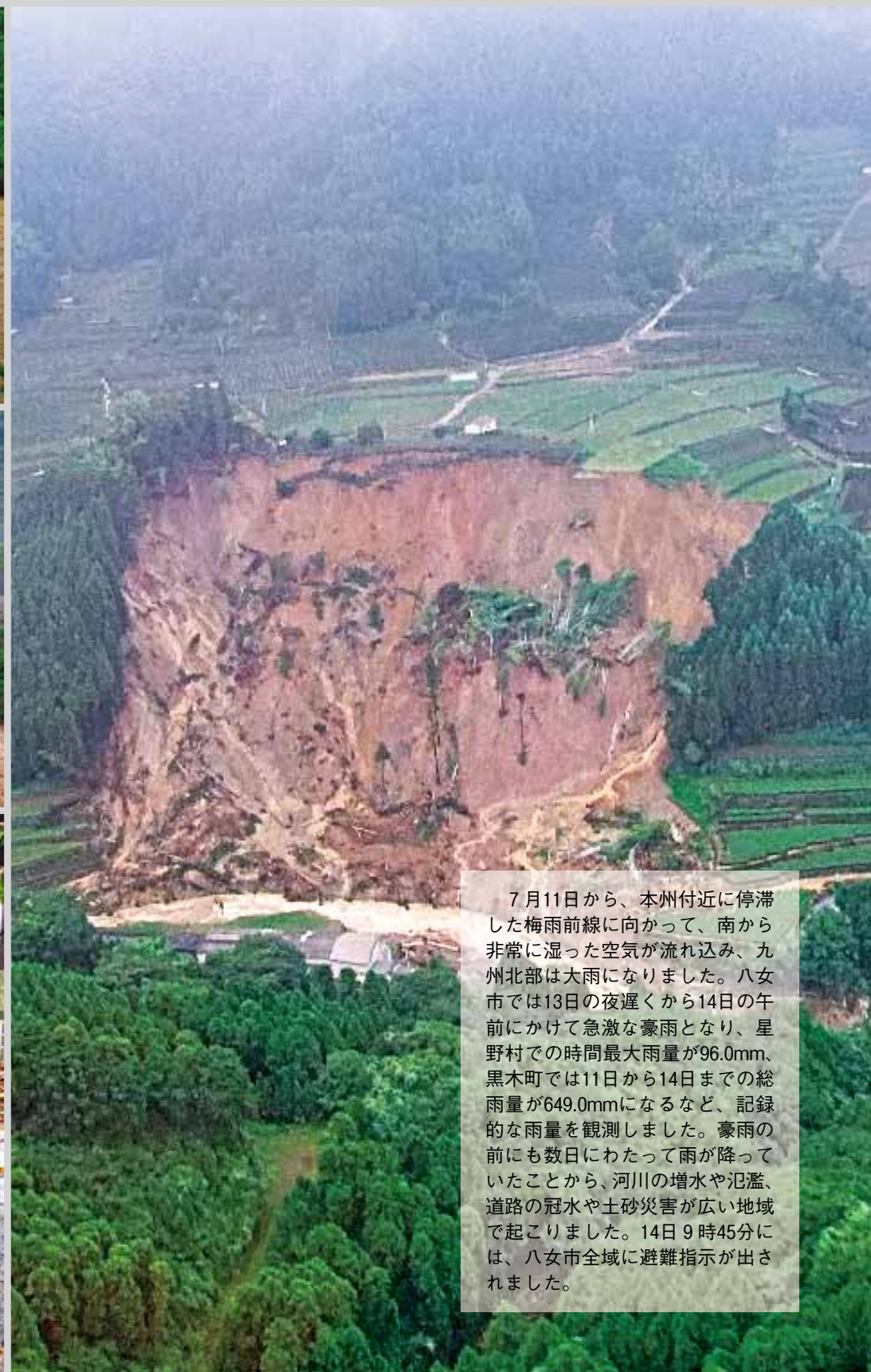


八女・豪雨災害と復興

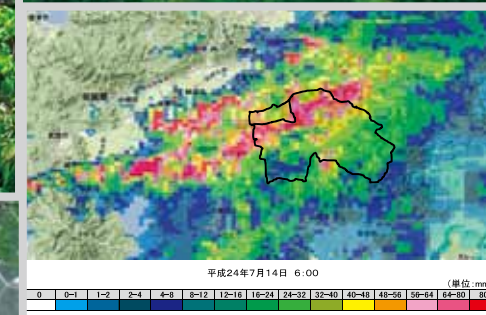
平成24年7月の豪雨災害

平成24（2012）年7月11～14日に九州北部を中心に発生した集中豪雨は、観測史上最大の降雨量を記録しました。13日から14日にかけて、八女市でも急激な記録的豪雨となり、黒木町、上陽町、立花町、星野村を中心に大きな被害をもたらしました。ここでは、生々しい災害の痕跡と復興を写真でご紹介します。

観測史上最大の雨量を記録



7月11日から、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって、南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部は大雨になりました。八女市では13日の夜遅くから14日の午前にかけて急激な豪雨となり、星野村での時間最大雨量が96.0mm、黒木町では11日から14日までの総雨量が649.0mmになるなど、記録的な雨量を観測しました。豪雨の前にも数日にわたって雨が降っていたことから、河川の増水や氾濫、道路の冠水や土砂災害が広い地域で起こりました。14日9時45分には、八女市全域に避難指示が出されました。



この豪雨により、黒木町と星野村で土砂災害が起こり、それぞれ1名の方が亡くなり、10名の方が負傷。八女市内での建物被害は1,760件、土災災害力所数2,574カ所、土災災害による被災額約214億円に及び災害発生当初6,659人の方が避難しました。村外に出る9つの主要道路がすべて寸断され、星野村全域が孤立したほか、黒木町笠原地区、上陽町久木原地区も孤立状態に陥りました。